

第6回都市水害に関するシンポジウム
講演論文集

Proceedings of the 6th Symposium on
Urban Flood Disasters
(Nov. 10, 2007)

平成19年11月10日
福岡リーセントホテル

主催 (社) 土木学会西部支部
地域防災研究会

緒 言

洪水氾濫災害は世界的に深刻な問題となっています。わが国においても、1999年・2003年福岡水害、2004年新潟・福島豪雨災害、2005年宮崎水害、2006年鹿児島県北部豪雨災害など氾濫災害が毎年のように頻発しています。福岡市の場合、御笠川が1999年と2003年の短期間に2度も洪水氾濫を引き起こしました。しかしながら、いずれも、降雨状況は異なり、洪水の流出規模も氾濫範囲も異なっていました。一部において防災関係機関の対応は遅れ、水害に対する“危機管理”の難しさがあらためて認識されました。

御笠川流域は比較的小流域であるため予測の余裕がありません。2度の水害はともに降雨開始から2～3時間で氾濫が始まりました。一方、避難、浸水防御などの準備には少なくとも3時間は必要です。従って、浸水防御、避難などの早急な準備を行うには、予測雨量をもとに被害予測を行う必要があります。すなわち、浸水被害予測技術に観測降雨・水位情報と予測降雨情報をリアルタイムに組み込むことが課題となっています。

土木学会西部支部では「浸水被害の早期警戒避難システム構築に関する調査研究委員会」（平成19、20年度）を設置し、福岡都市圏流域の河川を対象とし、観測点におけるリアルタイム降雨・水位情報と気象庁による降雨予測情報を併用した、浸水被害早期予測システム構築の可能性とその予測の限界について気象学、地理情報学、河川工学の観点から検討するとともに、それに基づいた予測情報の提供および避難システムのあり方について交通工学、人文社会科学の観点から検討を行っています。

一方、土木学会西部支部は、1999年福岡水害を契機として「都市水害に関するシンポジウム」を毎年開催し、特に発生頻度が高い中小都市河川の水害について、最新の研究成果を紹介するとともに、その対策について参加者とともに考えてまいりました。今回のシンポジウムは、調査委員会を公開する形で実施するもので、本年度は降雨予測と洪水予報を中心とし、来年度は地下街の浸水予測と避難のあり方を主要テーマとして発表と討議を行うものであります。

平成19年10月26日

橋本 晴行

土木学会西部支部調査研究委員会

委員長	橋本 晴行	九州大学大学院工学研究院・准教授
	疋田 誠	鹿児島工業高等専門学校・教授
	多田 彰秀	長崎大学工学部・教授
	守田 治	九州大学大学院理学研究院・准教授
	角 知憲	九州大学大学院工学研究院・教授
幹 事	西山 浩司	九州大学大学院工学研究院・助教
幹 事	梶田 佳孝	九州大学大学院工学研究院・助教
	松永 勝也	九州産業大学情報科学部・教授
	森 正壽	近畿大学産業理工学部・教授
	横田 尚俊	山口大学人文学部・教授
	戸田 圭一	京都大学防災研究所・教授
	杉本 正二	福岡県河川課長
	星子 明夫	福岡市防災危機管理課長
	木村 勲	福岡地下街開発（株）・防災センター所長
	川口 篤昭	日本工営（株）・課長補佐
	北野 真広	八千代エンジニアリング（株）・副部長
	日下部正昭	第一復建（株）・係長
	小林 博昭	西日本技術開発(株)・防災情報グループリーダー
	空 かおり	(株) 建設環境研究所・研究員
	中島 隆信	(株) 建設技術研究所・次長
	福元秀一郎	(株)東京建設コンサルタント・部長代理
若狭 聡	パシフィックコンサルタント（株）・技術部長	

オブザーバー

梶原 靖司	気象庁福岡管区气象台技術部予報課・課長
山中 健二郎	八千代エンジニアリング（株）・担当課長

目 次

1. 「梅雨期の集中豪雨のメカニズム」
.....守田 治 1
2. 「「解析雨量」と「降水短時間予報」について
—気象庁における雨量の実況解析と短時間予測—」
.....梶原靖司 7
3. 「御笠川洪水予報について」
.....杉本正二・福元秀一郎・早田研二 11
4. 「都市型水害に対応した氾濫解析手法について」
.....北野真広・和田高宏・石徹白伸也 17
5. 招待講演「洪水を対象としたロールプレイング演習に見られる災害対処活動の課題」
.....生嶋隆造 25